

E I L Sによる授業理解を深める振り返り活動の研究

愛媛県立宇和島南中等教育学校

芳野 航太

1 主題設定の理由

今年度は、5年生（高校2年生）の授業を主に担当することになった。令和6年度から大学入試共通テストにおいて情報が追加され、情報科においてはより一層の学習内容の定着が求められている。従来の情報の授業では、PCの扱い方などを学ぶ実践的な内容を含めた、実習中心の授業が多かった。

しかし、今後は大学入試共通テストに向けて、問題演習を含めた講義的な内容も教えていかなければならない。このような現状においても、学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力の三つの柱を伸ばすため、週2時間の授業を通して、全ての生徒により確かな知識を伝える必要がある。つまり、今までと同様の時間数で、これまでより多くの内容を確実に理解させなければならないということである。

そこで、E I L Sを用いた活動を取り入れることで、効率化を図れると共に、授業理解がより深まるのではないかと考えた。さらに、電子データとして残るので、教師による分析が容易に行え、その後の取組に生かされるのではないかと考え、このような主題を設定した。

2 目的

本研究の目的は、E I L Sを用いて單元ごとの小テストや授業コメントなどの振り返り活動を行わせ、生徒の授業理解が深まることを明らかにする。

3 仮説

單元ごとにE I L Sを用いて小テストを行うことで、授業内容を正しく理解しようとする姿勢が身に付くのではないかと考える。

また、生徒に授業コメントを書かせることで、その授業で何を学んできたのかを整理する機会を作ることが生徒へ確かな知識を身に付けさせることに繋がるのではないかと考える。

4 方法

電子データとして残るE I L Sの利点を生かし、小テストの結果と期末考査等の結果をまとめ、データ分析を行い、関連性が生じているのか検証する。さらに、授業コメントでテキストマイニングを行うことによって、日々、生徒がどのようなことを意識して授業を受けているかを確認し、成果との繋がりを検証する。

5 結果と考察

まずは、一学期中に全4回行ったE I L Sの小テスト及び授業コメントの結果と一学期末考査の関連性を検証する。E I L Sは各單元終了時に3問の

(発表用原稿 様式)

小テストと1問の授業コメントを生徒に記入させた。一学期の途中から行ったため、考査範囲では9単元あったが、小テストの実施は4回となっている。よって最大の合計点は16点となっている。一学期末考査については最大100点のテストとなっている。下の図が分析した結果である。

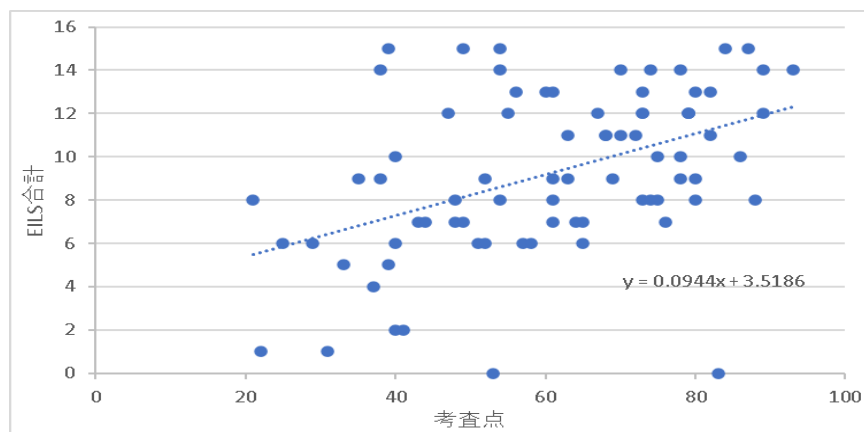


図1 E I L Sと考査の関連性分析図

E I L Sの合計点と考査の点数の相関係数は0.45となっており、一定の正の相関があると判明した。これはE I L Sによって授業への主体的な取り組み方や予習・復習につながる姿勢が育まれた結果によるものではないかと推測する。小テスト後に生徒から質問をされる機会も増え、このE I L Sによる小テストが生徒の確かな理解へと繋がっていると感じる。

次に、E I L Sで行った授業コメントの内容を、テキストマイニングを用いて分析する。

※ユーザーローカル大容量テキストマイニングツールで調査

<https://wordcloud.userlocal.jp/>

下の図がテキストマイニングによる結果である。

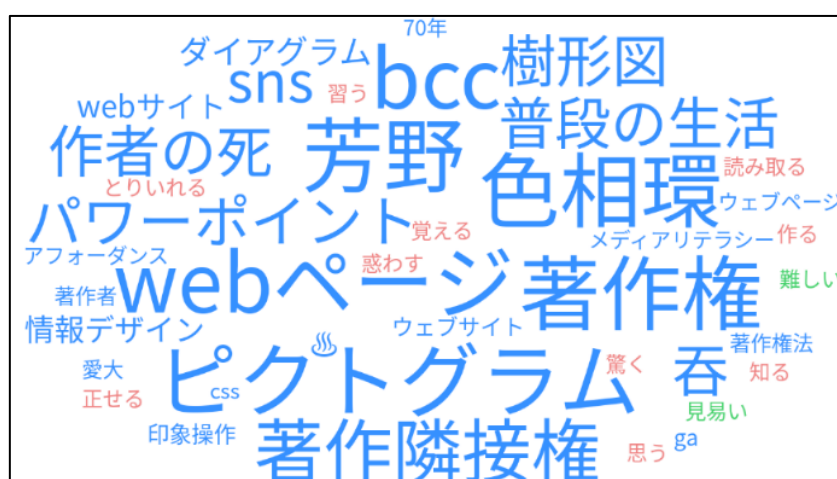


図2 テキストマイニング結果

授業コメントの分析を行うと、名詞の出現頻度が高くでてきた。この単語の多くは授業中に出てきた単語となっており、生徒の印象に残っていることが推測できる。

6 成果と課題

今回の調査ではE I L Sの合計点と考査の点数には、一定の正の相関があると判明した。

また、テキストマイニングによって生徒が1つ1つの単語を覚えようとしている姿勢が見て取れた。

ただ、この結果を受けての授業内容の修正などが行えていない点もある。二学期以降は分析と授業の繋がりを意識したい。

今回は一学期の途中から行いその結果を確認した。二学期も継続して行っているため、二学期末考査終了後に再度分析を行う予定である。